



# 学校通信 5月号

昭和薬科大学附属高等学校・中学校 校長発行

令和4年4月25日発行

## ■ 学校だより ■

### 「管理職面談」

教頭 今別府邦洋

本校の先生方は毎日充実感を持って授業しています。授業が魅力的だと生徒も輝きますし授業こそが生徒が最も現実的に「学校」を実感するところでしょう。そして校長は学校の理想的な方向性を示す立場でもあり、教頭は現実と理想の間で色々な仕事をする立場です。教頭は生徒からは見えにくく外部への発信もさほど多くありません。しかし情報は一番集まりますから話したことさえない生徒のこともよく知っています。授業や部活の様子、学校外での行動も卒業後の活躍までも伝わってきます。「やらかした」ら真っ先に連絡が入ります。私学なので親子二代でよく知っている場合などもあります。目立ちませんが裏方で走り回っていると「忍びの者みたいだ」などと思ったりもします。

さて本校では成績報告会議の結果を受けて生徒に管理職面談を実施することがあります。成績面だけでなく健康面や環境面などもみて実施を決めます。私が担当する際には以下のような観点で質問することがあります。

まず生活のリズムは整っているか？ 部屋や机周りは整頓されているか？ 学力を左右する要因はいくつもありますが基本は日常生活です。十分な睡眠や食事、規則正しい生活を送っているかは重要です。毎日の積み重ねの中で力は蓄えられてゆくのです。

次にネットで過ごす時間が長すぎはしないか？ 特に夜遅くになってからは厳禁

です。家庭内で使い方の約束ができていない場合は親御さんにも事情を伺うことがあります。いま何をなすべきか？ 中高時代に知力体力を養うのは一生モノの投資です。

さらに生徒本人が不安や不満に思っていることを話させます。この点で管理職面談の席上では大抵の生徒は素直に色々話してくれます。私の方でも予め情報を整理して面談に臨みますが、生徒本人に気づかせることで解決の糸口が見えることは重要です。認識は解決の出口が近いことを示しています。生徒は理解してくれる存在を求めていると思います。

生徒の資質は様々です。早い時期にペースを作り安定的に力を伸ばせる生徒もいれば、今は我慢のときだと思われる生徒もいます。卒業してから飛躍する生徒も数多く見てきました。管理職面談は叱責するためでなく生徒自身が気づきかけているものを拾い上げる手伝いだと考えています。義務的に話すのではなく、自分の可能性をちょっと試してもらえよう考えられれば楽しい時間になるのかも知れません。しかしそれにしてもネーミングが堅いですね。もう少しなんとかならないかなと思うのですが……。